

(別記)

## 令和3年度豊橋市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

豊橋市は、概ね平坦な地形と穏やかな気候により農業生産に恵まれた地域であり、農業産出額 434 億円となっている。この内訳は、野菜 56.2%、畜産 26.3%、果実 6.0%、花き 5.1%、米 4.2%となっており（注1）、野菜と畜産だけで80%以上を占めており、米の割合が低いことが特徴である。

（注1）令和2年3月17日公表【平成30年度農林水産省 市町村別農業産出額（推計）】より

#### 【水稻】

地域ごとにみると、西部は水田の1筆あたりの面積は広く、畦畔も小さいため、作業効率が良く、担い手が確保されている。一方、北東部の山間地域は作業効率が悪く、担い手不足が顕在化しつつある。

### 2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本市は、中心市街地から見て東西南北にそれぞれ農地が広がっている。南部地域は農地としては大きいものの、高低差があって一部地域を除き水田も散在している状況であるため、転作実績も比較的少ない。東部と西部地域については、高低差もなく整備された水田も多く、主食用米の作付が盛んである。山間部を含む北部地域については、山間部以外は豊川の流域沿岸に水田が広がっており、ある程度まとまった面積で麦類や飼料用米の作付が行われている。

高収益作物については、南部地域ではもともと野菜生産が盛んであることから、野菜への作付転換を進めていく。

転換作物については、北部地域では麦類の作付が盛んであるため、高付加価値の品種への導入も検討するとともに、飼料用米などでは堆肥散布など耕畜連携を通じて収量増につなげ、所得向上に努めていく。

また、低コスト生産技術の普及促進や農地を集約化（団地化）することにより、作付面積の拡大に対応していく。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本市の水田は、畑地面積のおよそ半分ほどであるが、基盤整備された水田も多く、担い手（オペレーター）が利用している水田の多くが整備済みである。これらのほ場では、麦類や飼料用米、WCS用稲などが多く作付されている。麦類については、導入されて以降、輪作までにはいたっていないものの作付拡大が進んでいる。飼料用米については、水稻からの転換作物として最も拡大が期待されているため、作付面積も拡大傾向にある。

しかしながら、南部地域や北部地域の山間部では、整備されておらず水田としての活用が難しいほ場も多い。そのため、活用が困難で活用が不十分となっている地域を中心に作付体系の見直しを図る必要がある。

これらの状況を踏まえて水田としての活用が不十分となっているほ場を中心に、現地調査や耕作者等への聞き取りを実施、将来的な水稻作付の可能性を探り、水田農業高収益化推進助成などの活用を図る。

## 4 作物ごとの取組方針等

### (1) 主食用米

本市の主力品種は「コシヒカリ」、「あいちのかおりSBL」、「あきたこまち」の3品種である。

水田の担い手農家は、農作業を受託するオペレーターが主で、需要動向や集荷業者等の意向を勘案しながら、品種の早晚、移植と不耕起V溝直播のバランス、食味の向上などを考慮し、さらなる経営規模拡大と競争力のある米づくりを追求している。夏季の著しい高温により品質が低下することがあることから、施肥改善などの対策を進めるとともに、「こだわり栽培米」の取組みなど、消費者に選ばれる米づくりを推進していく。

### (2) 備蓄米

国の方針に即した集荷業者等の割り当てに応じ、継続して取組んでいく。

### (3) 非主食用米

#### ア 飼料用米

飼料用米は、愛知県経済農業協同組合連合会を通じた取組みが主であり、当面は出荷契約先の確保に困ることなく取組拡大が可能とされているため、関係機関と調整を図りながら取組みを推進していく。

加えて、飼料用米の作付けを維持拡大のため、多収品種に比べて取組みが容易な主食用品種による飼料用米の取組みについても支援を継続していく。

また、全国的には飼料用米多収品種は取組割合の過半数に占めているが、本市の飼料用米多収品種の割合は約2割強と低くなっている。そのため、多収品種についても導入する取組みを支援していく。

#### イ 米粉用米

米粉用米については、複数年契約等、需要に応じた生産を推進しつつ作付面積を維持していく。

#### ウ 新市場開拓用米

内外の新市場の開拓を図る米づくりに対し支援していく。

#### エ WCS用稲

稲作農家と実需者である酪農家が生産利用組合をつくり、専用収穫機やラッピングマシンを共同購入・共同利用することで取組みを進めている。

WCS用稲は品質にばらつきが出ることが課題となっているため、生産性及び品質の向上を図るために、専用品種の作付けを進めるとともに、不耕起V溝直播栽培、疎植栽培、密苗栽培などの栽培技術の導入を促すことにより、取組拡大を図っていく。

#### オ 加工用米

加工用米については、複数年契約等、需要に応じた生産を推進しつつ作付面積を維持していく。

### (4) 麦、大豆、飼料作物

本市ではブロックローテーションが成立しておらず、麦・大豆の連作となることから、除草対策に苦慮するほ場が多い。このため、麦では、難防除対策やタンパク質含有量増加のための追肥、湿害対策の実施を促すことにより、収量増加と品質向上を図っていくとともに、作付面積を増やしていくことで、将来的なブロックローテーション導入

を目指していく。また、大豆では、播種時期の遅れ等により、収量が愛知県目標収量を大きく下回っていることから、播種時期を前進化や狭畦栽培、湿害対策の実施により、収量の増加・安定化を目指していく。

飼料作物（飼料用トウモロコシ）については、WCS用稲と同様に稲作農家と酪農家で構成する生産利用組合を中心に栽培を進めていくことで栽培技術の構築に努め、今後の取組拡大を図っていく。

(5) そば、なたね

取組なし

(6) 高収益作物

水田を活用した野菜づくりについて、米の需給調整に資する取組みとして今後も作付面積の拡大を推進する。

**5 作物ごとの作付予定面積等**

作物等	前年度作付面積等 (ha)	当年度の作付予定面積等 (ha)	令和5年度の作付目標面積等 (ha)
主食用米	1654.9	1528.3	1488.0
備蓄米	5.8	5.8	5.8
飼料用米	105.4	163.2	187.0
米粉用米	0.7	0.8	0.7
新市場開拓用米	3.0	5.6	6.0
WCS用稲	47.3	40.0	42.0
加工用米	2.0	4.0	5.0
麦	29.1	45.8	55.0
大豆	10.7	8.6	11.0
飼料作物	0.3	0.5	1.0
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0
そば	0.0	0.0	0.0
なたね	0.0	0.0	0.0
高収益作物	4.3	4.3	4.7
・野菜	4.3	4.3	4.7
・花き・花木	0.0	0.0	0.0
・果樹	0.0	0.0	0.0
・その他の高収益作物	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0
畑地化	0.0	0.0	0.0

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	小麦 （基幹作・二毛作）	小麦の品質向上	取組面積（a）	（2年度） 2,608	（5年度） 4,500
2	大豆 （基幹作・二毛作）	大豆の収量増加	取組面積（a） 収量（kg/10a）	（2年度） 1,074 （2年度） 12	（5年度） 1,100 （5年度） 142
3	飼料用米多収品種 （基幹作）	飼料用米多収品種の 支援	取組面積（a）	（2年度） 1,978	（5年度） 2,700
4	飼料用米主食用品 種（基幹作）	飼料用米主食用品種の 生産性向上	取組面積（a）	（2年度） 8,066	（5年度） 16,000
5	WCS用稲 （基幹作）	WCS用稲の 生産性・品質向上	取組面積（a）	（2年度） 4,708	（5年度） 4,200
6	高収益作物（野 菜） （基幹作・二毛 作）	高収益作物（野菜）へ の支援	取組面積（a）	（2年度） 435	（5年度） 470
7	WCS用稲、飼料用米 （基幹作）	耕畜連携（資源循環・わ ら利用）	取組面積（a） 飼料用米 WCS用稲 合 計	（2年度） 1309 — 1309	（5年度） 1,500 1,800 3,300
8	転換作物等 （麦類、大豆、飼 料用米、新市場開 拓用米及び別紙高 収益作物） （基幹作）	転換作物等拡大加算	転換作物拡大面積（a） 麦類 大豆 飼料用米 新市場開拓用米 高収益作物（野菜） 合 計	（2年度） 663 0 1,767 59 45 2,534	（5年度） 2,000 60 9,500 350 20 11,930
9	高収益作物等 （加工用米、新市 場開拓用米、飼料 用トウモロコシ及び高収 益作物（野菜）） （基幹作）	高収益作物等拡大加算	高収益作物拡大面積（a） 加工用米 新市場開拓用米 飼料用トウモロコシ 高収益作物（野菜） 合 計	（2年度） 0 59 30 45 134	（5年度） 20 350 40 20 430

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

## 7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。